

中山道の賑わいを取り戻そう！「鳥居本お宝発見隊」のキックオフイベント

第2回 とりいもと宿場まつり

これまで、活発なまちづくり活動がなかった鳥居本に、2009年8月に新しく「鳥居本お宝発見隊」が誕生し、10月18日には、昨年に引き続き、「とりいもと宿場まつり」が開催されました。「鳥居本お宝発見隊」は、鳥居本宿のかつての賑わいをとりもどし、新たなまちの活力を見出すことを目的とし、20数名の有志で結成されましたが、準備を進める中、自治連合会の協力も得られ、さらには滋賀県文化財保護課、近江鉄道(株)協賛事業への協力などにつながり、これからの活動に期待が感じられます。多くの課題を抱えながらも具体的な活動は、今後順次進めていきますが、キックオフイベントの準備段階の奮戦ぶりと当日の街道の賑わいをご紹介します。

鳥居本ブランドの発掘

昨年は、まったくの手探りの中、滋賀県立大学近藤研究室メンバーの協力で、高宮の赤プロジェクトに続くイベントとして第1回のとりいもと宿場まつりが開催されました。昨年参加した人の中から、せっかく始まったまつりを続けていきたいという声が高まり、第2回の開催となりました。ただし、漠然とイベントを開催するのではなく、コンセプトを持ち、多くの賛同を得ながら進めていこうということとなり、地産地消、地域の文化財の発掘をコンセプトにすることが合意され、8月には「鳥居本お宝発見隊」が発足しました。まったくのゼロからのスタートでしたが、大河ドラマの影響もあり、佐和山城下町をテーマとしたイベント内容が順次まとまり、まずは「三成汁」の試食会が開催されました。時流をつかんだこともあり、大きく報道され、その後の展開に弾みがつきました。

三成汁のほか、地元に住む画家で料理経験豊富な宮原勇作さんが「合羽タルト」を考案し、一方、仏生寺の佐々木さんは、伝統的な味噌づくりにひと味工夫を凝らした味噌を提供、早速「仏生寺みそ」と命名し、鳥居本ブランド第1号が誕生。言うまでもなく、当日はすべて完売、人気を集めました。



合羽タルト



鳥居本ブランド第1号「仏生寺みそ」

街道に高札、城下町に案内標識を設置

—地元企業の協力で看板の設置—



佐和山城大手門にはかつて大きな標識があったのですが、いつしか姿を消し、城下町界限には何の案内もありませんでした。一方、中山道も周辺案内のマップを鳥居本駅舎や合羽所に設置していたものの、案内表示がなかったことから、標識の設置は急務でした。資金がない中、西澤工務店さん、大鳥製作所さんら地元企業のご協力とスタッフの手作りで、高札や標識の制作が進められたのですが、予想以上に大変な作業が続きました。そして完成し、街道沿いや城下町に合計20基がたち、案内役を務めてくれています。まつりの開催と三成の城下町を示す「のぼり」が鮮やかにたち並ぶと、次第に町のみなさんの気分が高揚してきたものです。



昨年に続き街道沿いに赤い布などで装飾が施された



三成汁を提供したお休み処「しろすけ」

10月18日(日)

第2回とりいもと宿場まつり 参加者600名

9時過ぎには可愛い鳥居本駅舎が一杯になり、チンダンバンドがオープニングを盛り上げてくれました。会場に響き渡る鳥居本小学校校歌の合唱で華やかに開幕。駅舎では「鳥居本の面影展」が開催され、終日遠方からの乗降客でにぎわいました。

10時から、鳥居本地区公民館で『三成伝説』の著者、田付清子さんの「三成と佐和山城」の講演会が始まりましたが、会場いっぱいのお客様で大盛況。南地区公民館での滋賀県文化財保護課の発掘状況パネル展示にも人気が集まり、講演後は城下町散策に向かう人、街道を散策する人で佐和山城下町と赤に染まった鳥居本宿は終日、賑わいが戻ってきました。



オープニングを盛り上げていただいたチンダンバンド



カフェ「自然斉」での人気の
まと「合羽タルト」

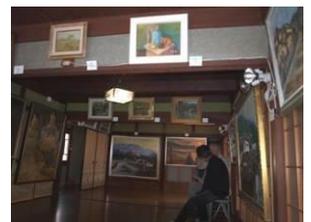
湖東焼き絵師「自然斉」旧宅
がカフェに変身



写真は創業350年を迎えた有川神教丸本舗とその製品

鳥居本宿のシンボリックな建造物である有川家が本年滋賀県文化財の指定を受けた。彦根市指定に続くもので、この指定が、少なくともまちの人々が誇らしく思えるできごとであるといえる。今回のイベントでも大変ご協力いただき、建物内の見学もできた。核となる文化財を中心に宿場町の新しい展開を目指したいものである

住居の公開も昨年より増え、本陣の公開や、ギャラリーとしての作品展示などには人気があり、すでに来年は、我が家でも何らかの企画をという声が上がっています。何もない、何ともならないというあきらめの気持ちが少しずつほぐれ、「やればできるのでは」という希望に一步步みだしたのが今回のイベントの大きな成果でした。まだまだ問題は多いのですが、12月5日の「まるごと佐和山城」イベントには、あいにくの天候であったにも関わらず、多数の参加があり、新たに「三成にぎり」の提供や街道案内を務めました。さらに来年に向けて佐和山城をテーマとした新たな展開の計画が持ち上がってきています。



多くの人を呼び込むには、会場、トイレ、駐車場など課題は山積みますが、楽しみながら克服し、笑顔が輝くまちづくりを目指したいと思っています。予算ゼロでスタートしましたが、本年の事業で収益が生まれるまでになったことは上出来だったと自負している次第です。

(お宝発見隊 岩根順子)